

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	(有)慈恵会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7番地8		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時から環境美化には特に力を入れて、施設内に独特な臭いがないよう気を付けている。入居者の皆さんがゆったりと安心して生活できるよう支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは全居室から海が見え眺めの良い場所に位置している。ホーム理念「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」は職員の支援の基本となり日々実践している。特に利用者の自尊心や出来る喜びの重要性を、職員は理解し、個別支援に努めている。車椅子利用者の入浴方法や支援記録の書き方など、職員からの提案が活かされ、支援記録はマーカーを用いることで状況が分かりやすく、更なる支援の向上に繋がっている。今年度は薬局と「居宅療養管理指導」に関する連携を取り、医療について専門者からの的確な指導を受けることで、健康面の安心感も増している。職員は少しの時間でも利用者一人一人と寄り添いながら会話し、利用者の笑顔を導いている。利用者同士も会話が長く、笑顔が溢れているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

グループホームやすらぎの里  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、施設の理念を理解しながら毎日のケアに取り組んでる。	理念は玄関の目につく場所に掲げている。管理者は職員に対して入社時から「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」の思いを説明し、浸透させている。利用者を最優先し、一日一回は利用者が笑顔になり、ホームでの暮らしが満足できるよう常に意識し、ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が行きたい所へ買い物にお連れしたり、ボランティアの方に来て頂いたり、地域との交流はできている。	地域の商店を利用したり、近隣の美容室と提携するなど交流している。ホームの行事では、地元のボランティアグループの演芸披露がある。このところ、外国人観光客が敷地内に入ったり、不審者もいるため、毎晩地元警察に巡回に来てもらい、地域の一員として繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては特に実践はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催される会議では、色んな意見が活発に出て、施設からの報告やそれについての質問など意義のある会議が出来ている。又サービスの向上にも繋がっている。	2ヶ月に1度行政や病院関係者、地域住民等の参加のもと開催している。事業所における利用者の状況や行事の説明の他、質疑応答では活発な意見が出ており詳細な議事録も作成している。会議で出た意見や提案により改善された事項も多く、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員とは連絡を密にとっており、情報交換にも役立っている。	行政には不明点あれば、すぐ問い合わせている。また、利用者に関わる担当部署とも連絡を取っており、日常から電話やファックスで連絡を取り合っている。行政主催の研修に職員が参加したり、介護認定更新時の際、調査員に生活状況を伝えたりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で取り組んでいる事であり、職員全員正しい理解はできている。	身体だけでなく言葉の拘束にも気をつけ、大声で話し掛らず、ゆっくり話し掛ける等、新人職員の教育も徹底している。職員同士でアイデアを出し合い、利用者一人一人の個性に合わせて工夫し、拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関を開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加している。職員全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加している。もし必要と判断すれば活用できるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得は得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方が面会に来られた際意見等をお聞きしたりしている。要望などがあれば柔軟に対応できる。	利用開始時に意見要望の手順や仕組みについて説明している。家族の訪問時や電話、ホーム便りを通じて利用者の様子を伝えている。新人職員自ら家族訪問時は自己紹介し、家族が声を掛けやすい雰囲気作りを含め、家族との信頼関係を築くよう努めている。面会時間外の対応など要望を受け、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフミーティングを行っている。不定期に代表も出席して職員との意見交換はできている。	毎月の会議や日々の申し送り時に、職員は意見・提案している。必要に応じて代表も会議へ参加し、職員の意見を聞いている。支援時に必要な物品購入の他、職員の提案から、日々の記録の取り方について等改善に繋がっている。提案は実践し、サービス向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や努力を把握し、各自向上心が持てるよう条件に整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への積極的な参加を促し、自職への質を高められるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流など積極的に取り組み、サービスの質を向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと日々の暮らしの中から心身の状態を把握し、不安や要望を聞き入れながら、安心して生活して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	様々な会話やお話しの中でご本人やご家族の困っている事の不安を理解し、要望等を聞き入れながらより良い関係は出来ているといえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって今何が必要なのか、何の支援が大事なのか見極めながら提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、時には寂しさ、又楽しみや喜びを共に共有し同じ目線でのケアを心掛けており、良好な関係は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お一人おひとりの心に寄り添い、個々の情報を共有し、ご家族とも良好な関係は出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの行きつけのお店や美容院等、外出の機会が持てるよう出来るだけ支援している。	職員は本人・家族、居宅時のケアマネージャー等から生活歴を聞き、個人記録に記載し情報共有している。情報を基に、馴染みの美容室や手芸材料店、自宅周辺ドライブなど出掛けている。居室でゆっくり家族と話したり、家族や友人など多くの訪問もある。法事や食事などの外出も気兼ねなく出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係は全職員十分把握できている。又孤立しないよう常に配慮し、状況に応じた場面作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても関係は良好に保てており、面会には必ず行き、必要な相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中の行動や表情からご本人の思いをくみ取りながら柔軟に対応している。困難な方はご家族から細かく情報得て、できる限りご本人本位になるよう努力している。	職員は、利用者との会話や表情を見ながら利用者の思いを汲んでいる。日々寄り添いながら会話することで、信頼関係作りに努めている。居室等対面時に、利用者の本音を聞いている。発語困難な場合も、表情の変化や口元を見て意向を確認している。日中の過ごし方も、利用者の気持ちを優先して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、知人等から生活環境やサービス履歴など細かく情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録簿全てに詳細に記録しており、全職員充分把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思の疎通のできる方はお話しする中から、又ご家族からの意見を聞いたりとしている。毎月のミーティング等で職員の意見やアイデアを取り入れたりしてプラン作成に活かしている。	長期・短期の支援目標を作成し、その意義を職員は理解している。月ごとのカンファレンスの他、申し送りでも利用者の状況を報告し、意見を出し合っている。家族に「介護支援経過記録」を郵送し、訪問時や電話にて意見を聞いている。プラン変更後はまずは電話で伝え、訪問時に家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的、精神的等細かに個別に記録しており、情報は職員全て共有し又プランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて柔軟なサービスの提供や支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心した生活や安全な暮らしができるよう地域の方々の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に沿った医療機関に定期的な受診が出来ている。状態の変化に応じ担当医と連携をとり適切な医療は受けている。良好な関係は保たれているといえる。	病院受診の付き添いは職員が行い、家族に病状や薬の変更等、電話で結果を報告している。インフルエンザ予防接種を受ける際も家族の同意を得ている。今年から薬局と利用者が「居宅療養管理指導」の契約を結び、病院との連絡や細かい要望にも対応でき適切な医療支援に役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが受診の際の個別ノートに担当介助者が詳細に記録し、誰が同行しても分かるよう情報の共有は出来ている。又居宅療養管理指導の契約をして薬剤師にも相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には細かい情報を提供している(ケアパス)早期退院ができるよう病院と連絡をとり情報交換は出来ており、良好な関係は保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については、重要事項に明記しており入所の際に細かく説明し了解を得ている。	事業所としては看取りを行わない方針である。利用開始時に重要事項説明書に記載している看取りの方針を読みながら、利用者・家族に十分な説明を行い、サインにて了承を得ている。重度化した場合は医師、家族と話し合い、次の施設等の情報提供や支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や緊急時の対処方など、消防訓練時に講習を受けて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防避難訓練の実施で、全職員防火、消火については身につけているといえるが、地域との協力体制は構築出来ていない。	年に2回消防署立会いで職員、利用者参加で消防訓練を実施している。水消火器訓練やAED実技演習、毛布を使っての避難訓練も行っている。訓練には近隣に住宅が少ない事もあり、地域住民の参加はまだである。また自然災害に向けた準備が行われておらず、避難場所が事業所の隣であるため、安全面で不安が残る。	実際の災害時は避難誘導の際、近隣住民の協力が必要であり、地元消防団との更なる協力体制を築く為にも、訓練参加への働きかけなどを期待したい。また、大雨や台風など自然災害訓練実施や別の避難場所を確保なども検討、取組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設で一番大切な事として、全職員常に心掛け、実践している。	居室に入る時はノックし必ず閉めたり、名前の呼び方等、利用者の尊厳を大切に支援している。羞恥心にも配慮し、トイレ誘導時は耳元で声を掛けたり、廊下に衝立を配置し入浴準備が見えないよう工夫している。写真使用の同意書を取り、職員も守秘義務について周知徹底している。個人情報に関わる書類の保管方法に不備な点がある。	個人情報の保管場所は事務所であるが、書類の内容によっては、厳重な保管が必要である。保管方法について再検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面で本人が自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にしゆったりと過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況にあったおしゃれや身だしなみをご本人と相談しながら決定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や後片づけ等、個々の能力を活かし楽しみが持てるよう一緒に行っている。	嗜好や旬や地元の食材を取り入れた献立は、必ず5品作り栄養バランスに配慮している。利用者の嚥下に合わせた形態や盛付けで提供している。その日の体調に応じ食事量を変え、必ず完食出来るよう配慮しており、完食できる喜びを利用者は感じている。季節行事の献立や手作りおやつなど、食事を楽しむ工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分や食事の摂取量を記録し、お一人お一人が十分摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当施設が開設当初から最も力を入れている取り組みであり、個々に応じた口腔ケアは十分出来ている。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録で、個々の排泄のパターンは全職員把握しており、お一人おひとりに合わせた声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄パターン表を作成し、職員は利用者の排泄支援状況を把握している。ホームでは座位排泄を支援している。トイレ支援時は、自尊心に配慮し過剰支援にならないよう、本人が出来ることは職員は見守りで支援している。利用者の仕草を見て声掛け、誘導にするより、失敗が減り利用者は心地よく日中を過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内を歩いて頂いたり、食事で繊維の多い食品や乳製品をできる摂って頂き自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回で、自立歩行できる方と車いす利用の方の曜日を別にしてゆっくり入って頂いている。希望があれば体調に合わせて柔軟な対応は出来ている。	毎日入浴を準備し、最低でも週3回入浴できるように支援している。車椅子利用者も湯船に浸かれるように配慮しており、体調により入浴できない時は清拭で対応している。利用者は職員とゆっくりと会話したり、心地よく入浴している。入浴を拒否する利用者はおらず、入浴が利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状況に応じた対応を行っている。午後、休養と位置づけて全入居者お部屋でゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を綴っており、全職員何時でも確認できる。毎日の記録にも詳細に書いてあり病状の変化などは確認できる。又薬剤師にも相談できる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下膳や居室の拭き掃除、タオルたたみなど個々の能力に応じた役割で楽しみや生きがいを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が希望されれば、買い物や散歩などに行き気分転換できるよう支援出来ている。又ご家族と一緒に外出ができるよう支援している。	1人から3人のグループで、ホーム周辺の散歩に出掛けている。車椅子利用者も同様に支援している。季節の花見など企画し、皆で外出を楽しむことも多い。年1度の地域の福祉施設との施設間交流会へ参加している。個別の買い物支援や、気分転換のドライブなど日常的に外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はおられません が、買い物の際など場面によって使えるよう 支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化には特に気をつけていて、不快な臭いが出ないように細心の注意を行っている。 音や光にも配慮して、皆さんが居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	ゆったりとしたリビングは明るく開放的である。ソファやダイニングテーブル等の調度類も利用者が使用しやすく、また配置も適所である。写真や利用者の作品、季節感ある飾り付けなど、視覚からも楽しめる雰囲気作りを工夫している。職員が清掃・換気しており、ホーム内全てに清潔感あり心地よく、家庭の温かみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで寛いで頂いたり、入居者同士がお部屋で話せたり、楽しみが持てる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに、馴染みの家具や使い慣れた日用品等、持参して頂き居心地よく生活して頂けるよう支援している。	居室には利用者が馴染んで暮らせるように、自宅で使用していたものは自由に持ち込むことが出来る。筆筒やテレビ、自身の作品など配置も利用者が落ち着けるように検討・工夫している。職員が清掃・換気し、利用者がいつでも居室で寛げるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備や、混乱を避ける為の案内紙などを貼り安全で自立した生活が出来るよう工夫している。		